

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1990100149		
法人名	社会福祉法人 清長会		
事業所名	しあわせホーム甲府		
所在地	甲府市城東3-7-11		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の方々との関わりが多く持てるよう、ボランティアの受け入れを多く行事に取り入れ認知症の方の理解、認識をして頂いている。ホーム独自の歌や踊りを利用者様とともに考え、日々の機能訓練として行っている。また、日々の作品を作り上げる事に励み、日常生活に張りが持てるように取り組んでいる。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成29年10月12日(木)		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、甲府市の東部に位置し2階建ての2階部分にある。家族会・利用者の友人会・職員の親睦会があり、日帰り旅行を兼ねて家族会総会を開催している。職員は、「利用者が全員明るく・仲良く生活が出来る・思いやりの心でお互いに接する・地域との関わりを持つ」これらの事を念頭に日々利用者として接している。地域のお祭りや小学校の文化祭には、利用者が作った作品を出品し交流を図っている。災害時に備えて、地域住民による「12名の協力員」が組織されているなど、地域に根ざした事業所づくりを心掛けている。施設長・管理者を始め全職員が、利用者の持てる力を活かした支援を行っている。利用者は、コミュニケーションをとりながら、活き活きと生活している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名: **しあわせホーム甲府**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	夢と笑顔に満ち溢れ一人ひとりが地域との関わりを持ちしあわせを感じるホームを理念とし共有、実践に繋げている。毎朝、機能訓練を兼ねた体操後の朝の会で職員と利用者が一緒に共同生活の場としての心がけ2項目を声に出して読み上げている。同時に理念も読み常に振り返る場としている。職員は利用者同士が仲良くしている事が一番幸せと感じており新しく入った人も仲良くなれるよう気を配っている。	基本理念に「夢と笑顔に満ちあふれ一人ひとりが地域との関わりを持ち幸せを感じるホーム」を掲げており、その他「人の事を中傷したり欠点を言わないようにする」「思いやりの心でお互いに接する」を毎朝、利用者と一緒に唱和し、毎日を気持ちよく過ごせるようにしている。家族とも理念や心がけを共有しており、職員は常に利用者の気持ちを組み取りながら支援している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	朝日町のお祭りや文化祭への出展。多数ボランティアの来所等。作品は日々のレクリエーションで作成している。ボランティアは、フラダンス、絵手紙教室、大正琴、大衆演劇、アニマルセラピー等多数来所している。また、甲府市の笑顔ふれあいサポーターの方も2組来所している。ボランティアを受け入れる為に、掲示板、知人や地域住民、法人内の施設を通し働きかけている。	自治会に加入し、回覧板を利用者と一緒に届け、地域の情報を得ている。近くの店に毎日食事の買い物に行ったり、地域の行事に参加する等地域とは日常的に交流している。ボランティアとの関わりも多く、大衆演劇などもあり利用者は楽しみにしている。また、講師が訪れ、絵手紙、牛乳パック和服のリサイクル作品等利用者に指導をしている。作品は文化祭等に出品するなど常に地域との関わりづくりに取り組んでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方によるボランティアや運営推進会議、防災訓練等の協力を通じ、事業所の運営や認知症の方との共存を理解し、支援して頂いている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回、定期的な会議を開催し、利用者、地域代表、包括職員、利用者家族代表、有識者の参加により、第3者からの意見を頂き、サービスの向上に活かす事が出来ている。事業状況や外部評価の結果を報告しており、評価の課題に取り組み実施している。会議時に地域に災害時の為に協力員がいたほうが良いという意見があり、結果12名の協力員に依頼し、防災訓練や施設見学に來所して頂いた。	運営推進会議は、奇数月の第4週の月～金曜日の間の午後1時30分から開催している。家族には事前に連絡し利用者と一緒に参加している。事業所の状況報告を行い職員の勤務体制や実習生の受け入れについてのアドバイスがあった。それをきっかけに夜間勤務体制の見直しや、実習生の受け入れ体制について整備するなど、意見を運営に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所や甲府市地域包括へ事業所の状況の報告を行いながら、協力関係を築いている。市へ推進会議や事業状況を持参したり、しあわせ便りを郵送して協力関係を築けるよう心掛けている。	毎月の介護相談員の受け入れ、事業所の「しあわせ便り」で事業所の様子を知ってもらったり、ボランティアの派遣を市に依頼している。また、家族から希望があれば、介護認定更新の手続きに行くなど、市の担当者とは連携を深めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を中心とし、研修会への参加や会議等の取り組みの確認を周知徹底する場を設けている。スピーチロックに関しては、各々講師になり研修をする事で意識づけをしている。不適切な言葉遣いは、後で1対1で話し合い、会議で再確認をして共有している。普段は作品作りに取り組んでいるが、気持ちが不安定な時は家族に連絡したり、一緒に外出する等の対応を工夫している。	事業所独自に実施している身体拘束委員会の研修や法人全体の研修に参加し、全職員が身体拘束にあたる行為を正しく理解している。スピーチロックについては、不適切な言葉かけに気が付いた時お互いに注意し合っている。また、利用者の対応について話し合いを行う場を持って支援にあたっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内外の研修の参加により、知識を持ち、職員会議にて報告を行い、一人ひとりが注意し虐待防止に努めている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修参加や施設内研修を行い、職員全体で情報を共有しながら学び、積極的に研修会への参加もしている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は変更等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時、本人家族を含め契約内容、重要事項説明を行い利用について理解して頂いたら署名、捺印を頂いている。			

自己評価および外部評価結果

事業所名: **しあわせホーム甲府**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会総会において、定期的に家族との意見、要望を伺う機会を作り、ホール内にも無記名のアンケートを設置し、家族や第3者からの意見を掲示板に掲載する事により、運営、ケアに反映させている。直接相談も受け付けている。家族の来所時や、家族会で意見が出ている。意見や要望はホーム内の専用掲示板に貼り出している。	5月に利用者・家族・職員が日帰り温泉旅行を行い家族会総会を開催している。12月には、利用者と共に居室の大掃除を行っている。また、家族会の意見や言葉等はホール内に掲示を行っている。県外の家族から、急な受診対応が困難であり、その際の対応について意見をいただいたときは、事業所の現状を伝えつつ、家族の負担にならないよう対応を検討した。また、ブログを通じて情報を発信し、家族にも常に利用者の様子がわかるよう、取り組みを行っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に相談、意見のできる環境作りを努め、1人ひとりの意見や要望を聞き、毎日実施している。職員会議やリーダー会議にて反映させている。各職員が行事や委員会の担当を受け持っており会議時はそれぞれの問題点や提案を出し話し合いをしているので意見が出やすい。研修案内を見て希望を出したり、施設から勧められたりして参加している。職員間の絆を深める為、親睦会が定期的にある。	年2回の個別面談や月1回のリーダー会・職員会議で意見を出している。職員の勤務体制については、希望に添ってシフトを作り、突発的に休む時には、職員同士で協力し合っている。また、シルバーカーなどの物品購入は、伺い書を施設長に提出している。年4回の職員親睦会は、一人ひとり役割があり連帯感を育て協力し合える関係づくりに役立っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課等の個別面談を行い、各自が向上心を持てる様適材適所を見極め、役割を持ってもらう。働きやすい職場を目指し常に相談する機会を設け定期的な親睦会を実施している。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを目指している	法人内での新任研修や事業所内での研修、勉強会にも参加し、サービス向上に努めている。外部研修も、職員会議で報告、共有を図っている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内で連携を図り、利用者に関わりながら、職員と共に交流会を実施。又他施設の見学や交流会等実施している。			
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に必ず面接と事業への見学の実施をしている。事前に情報を聞き要望や不安を職員が理解した上で入所出来るよう心掛けている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学や入所後の様子説明を通し、家族の意向を開ける環境を作り、入所後もこまめに連絡を取り信頼関係が持てる様努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者と家族の意向を十分に聞き、他サービスも含めた利用の説明を十分に行い、様々な選択肢の中より意向に沿った情報提供を行っている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	1人ひとりの人格を尊重し共に生活する中で、お互いの時間、生活を大切にしたい共存が出来るよう努めている。			

自己評価および外部評価結果

事業所名: **しあわせホーム甲府**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の状況をこまめに報告、相談する事により家族の協力、又家族の意向で支援していけるよう努めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所により知人との関係が途切れる事の無いようにいつでも気軽に訪ねて来れるよう環境作りに努めている。又、本人が気軽に会いたい方への連絡等もご家族の協力を得て実施している。親戚の方や友人の訪問があり、友人については家族への了承を得ている。手紙の取次ぎ支援をしており、絵手紙教室で描いた手紙を送った。美容室は家族の対応であるが、地域の美容室に来てもらい、利用する事で地域との関係が築けている。	利用者一人ひとりの生活歴を把握し、教会の礼拝時への送迎・訪問美容室の対応など、関係を継続出来るように支援している。また、家族の協力により、結婚式への出席・法事・お墓参りなど、出掛ける場面を積極的に作っている。また、会議室に利用者が何時でも使用できる電話が設置されているほか、携帯電話を持っている利用者もいる。市内の「えびす講」祭りに参加し、利用者が作った作品を出展し地域社会との関わりを継続している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が互いに支え合えるような支援に努めている	日頃の生活の中で、協力し作り上げる作業を取り入れ親睦が深められるような工夫をしている。又、席や居室の移動も相談の元実施している。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時にサービス終了後も変わらず相談を受け付けられる事をお伝えし継続的に関わりが持てる様支援している。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時には、本人家族に意向を確認しケアプランに反映させている。日々の生活でも個々の意向を聞き、把握に努めている。友人会(利用者の会)があり、ほとんどの利用者が話が出来て、希望が言える。利用者同士の話を聞き、気づいた事から思いを汲み取れることもある。食事の希望が多く出ておりメニューに取り入れている。	利用者の友人会が年3~4回あり、お茶を飲みながらそれぞれ食事の好みや見たい映画などを話し合っている。職員は、その意向を汲み取り、事業所内を映画館の様に仕立て、ビデオで昔の映画鑑賞をし、個人の趣味などにも対応している。職員の年代も幅が広く、一人ひとりの役割を意識し、利用者の思いや希望に沿えるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の面接において本人と家族に意向を確認し、プランに反映させている。日々の生活でも個々の意見を聞き把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズム、身体状況に合わせて残存機能を活かした機能訓練、生活リハビリ体操等を実施している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネが中心となり、本人、家族、主治医、職員より意見を持ち寄り、ケアプランを作成している。家族と利用者との見学や面接を基にプランを作り、契約時に担当者会議で確認をしてケアプランを作成している。モニタリングは日々の記録や職員の気付きを記入して1年に1回の見直しに反映している。状態に変化がある時は、その都度見直している。	入居時には、本人の思いや、家族の意向を聞き、暫定の介護計画を作成している。月1回の職員会議で居室担当職員から日常の細かい情報を聞き、管理者、ケアマネジャーで再アセスメントをし、確定プランを作成している。その後は3か月に1回、または、大きな変化があった場合はその都度モニタリングをし、利用者の状態に合った介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った形で毎日個人ファイルに記録を記載し、職員間の情報共有を行っている。特記がある場合は色を変えて記入し、ケースシートで共有し、統一したケアに努めている。			

自己評価および外部評価結果

事業所名: **しあわせホーム甲府**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人内に特養、ショートステイ、デイサービス、居宅介護支援事業所がある為、連携を図りながら本人家族が状況に応じた柔軟な対応に努めている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	積極的にボランティアの受け入れを行っており、多くの方が来所し、日々の活力、楽しみに繋げている。市内のお祭りや文化祭等色々なイベントにも参加して事業所のPRを行っている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に主治医を変更するのではなく、本人の病状や家族の希望に沿い、事業所の状況として受診連絡票を作成し、主治医との関わりを維持、継続していけるよう連携を図っている。事業所の月1回の往診や必要に応じて、歯科医、皮膚科、眼科の関係も保持している。	以前からのかかりつけ医による受診を継続できるよう支援している。家族対応での受診の際は、受診連絡票で情報を共有し、受診後は、医師からの直接報告や家族から報告を受けて、個人記録・職員連絡ノートに記入し、情報を全職員で共有している。基本的に、月1回第2木曜日に往診がある。他にも必要時は随時対応可能である。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診看護師やかかりつけ看護師と情報を共有しながら、生活、身体状況の支援に努め、必要に応じて相談、助言を頂いている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先に出向き、本人の状況確認をし、医師・看護師・ケースワーカーからの意見、情報交換をしながら家族を含め相談し、早期退院できるよう努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人、家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時に重度化や終末期に向けた方向として同法人の特養申し込みを案内させて頂いたり、家族会を通じて事業所の方針と事業所で出来る事の説明をさせて頂き、随時状況変化に対応出来るよう連絡を行っている。	入居時に、重度化や看取りについて、事業所の対応等を説明し話し合っている。事業所の方針としては、常時医療行為の必要性が生じた時や、入浴支援の対応が困難になった場合には、家族と話し合い医療機関への対応も検討している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変マニュアルを活用し対応を行っている。利用者名簿、職員連絡網の活用、ヒヤリハット、インシデントレポートの活用も、事故防止委員会が中心となり対応、対策を検討している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施し、地域住民に協力員になって頂き、災害時、緊急の協力を依頼、要望し避難訓練も行っている。避難場所が決めているので、外出の際には毎回話をし意識づけをしている。	3か月に1回火災・水害・地震の避難訓練を実施している。夜間想定訓練では、夜勤者一人ひとりが、実際に想定された訓練を実施し、具体的な行動を確認している。消防署から年2回初期消火器訓練・火災通報装置の使用方法などの指導を受けている。避難口・避難用滑り台・はしごが備えてある。年1回は地域の協力員と一緒に訓練を行い、地域との協力体制を築いている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重する為に、認知症利用者に対する1人ひとりのケアを重視し、職員会議や施設内の勉強会を通じ、プライバシーを損ねない言葉掛けの統一も検討し対応を行っている。重要書類は鍵を掛けて保管している。利用者間でも傷つける事は言わない様に心掛ける事を毎日皆で読み上げて意識出来るようにしている。研修会等で人として尊厳を保つケアを学び意識しながら言葉掛けをしている。	職員は、初任者研修や入職契約時に秘密保持について学んでいる。日常の生活支援の中で利用者の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや自己決定を促す言葉かけに努めている。入浴支援は、利用者の希望に沿って同性介護の対応をしている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名: **しあわせホーム甲府**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	友人会を開催する等利用者の想いを傾聴し、見守りながらその能力を見極め、自己決定できるよう選択肢を多く持てる様支援する。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペースを大切にす為にも、無理強制せずレベル低下に注意しその時その時の本人の希望に沿ったケアを支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の洋服の準備は出来る限り本人と一緒にし、身だしなみやおしゃれを自己決定して頂いている。必要に応じ家族にも協力して頂き、化粧品を持ってきて頂いている。外出する際は、希望によりお化粧をして出かけられるように支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員がメニューを作り、近くのスーパーに利用者と共に食材の買い出しに行っている。食事作りから食器の片付けまで利用者ができることを一緒にしている。食事前には嚥下体操を行っており、定期的に嗜好調査を行い、希望で外食も取り入れている。	嗜好調査や友人会から出た意見を基に職員がメニューを作成している。利用者が先導して10項目の食前体操をしたり、音楽を流したりなど、食事を楽しむ工夫をしている。食材に関しては法人関係の事業所で作った新鮮な野菜を使用している。厨房のカウンターは低く、利用者も利用しやすい形となっている。職員と同じテーブルで話を弾ませながら楽しくゆったりと食事している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人の食分量、水分量を把握し毎食ごとに摂取量のチェックを記録し、栄養のバランスの確認を行っている。摂取ペースも各々違う為、「ごちそうさま」は統一せず本人の状況に合わせてケアを行っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時及び食後に口腔ケアを実施し、残存機能を活かしながら仕上げ確認を職員側で援助している。また歯科往診の際、歯科医よりアドバイスを頂き、口腔内の衛生保持に努めている。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを職員全員で把握し、1人1人の状態に合わせた方法で排便を促し、失禁に繋がらないような支援を行っている。自立している方が多く行きたい時に行かれる方が多い。介助支援の方は、排泄パターンを把握して時間を見ながら声掛けをしている。トイレの中に注意事項を書いた紙を貼り、お互いが気持ちよく生活出来る様になっている。	トイレ内に注意事項の紙を貼りお互いに気持ちよくトイレが使用出来る様になっている。トイレ誘導の利用者には、排泄チェック表を使い、声掛けや表情からさりげなく個々の排泄支援を行っており、自立の利用者も何人かいる。職員はトイレでの排泄や自立に向けての支援をしており、昼夜オムツ使用の利用者はいない。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行いながら、個々の排便状況を把握し、1人1人に合わせた排便が出来る時間や、環境を提供し定期的な運動を取り入れ、水分補給での工夫を行いながら、便秘予防に努めている。また、本人の生活習慣から、牛乳を購入し飲むことで自然排便に繋げる支援もしている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	健康状態を考慮した上で、利用者の希望やタイミングに合わせて入浴を支援している。1人ずつの対応で行っている。	何時でも入浴できる準備はあるが、一人が週2~3回の入浴になっている。気の合う友達と一緒に入浴する時もある。好みの入浴用品を個々に使用している利用者もいる。入浴時に音楽を掛けたり、季節のゆず湯等、くつろいだ気分に入浴できるように工夫している。		

自己評価および外部評価結果

事業所名: **しあわせホーム甲府**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活パターンを理解し、利用者のペースで入眠を促すよう支援している。状況に応じ、職員と過ごし、安眠が出来るような環境も提供している。日中も本人の希望により、昼寝をして休息出来る様にしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療関係書類は1冊にまとめ、職員が常に服薬について把握出来る様になっている。薬の変更については、確認ノートの活用や、申し送りにて2重確認を行いながら、症状変化については記録と申し送りを行う。又、家族にも適宜報告を行っている。服薬ミスを防ぐ為、チェック表も活用している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の役割や、身体状況を見極め、状態を勘案しながら出来る事の支援を考慮し、生活パターンが同じにならないようメリハリをつけて支援している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとの外出、個別外出を取り入れ、出来るだけ本人の希望に沿った支援が行えるよう心掛けている。年間行事の中の家族参加の日帰り旅行や、お花見に出かけたり日常的には、食材の買い出しに行っている。暖かい日には出来るだけ外気に当たれるよう支援している。また家族にもしあわせ便りやブログなどでお知らせしている。	部屋の前にベランダがあり、外気を感じる事ができ、窓の外から庭の四季折々の景色が見られる。地域の七夕祭りや、敬老会に参加し流しそうめんやフラダンスを楽しんでいる。大型ショッピングセンターへの食事や、いちご狩りなど積極的に外出の支援を行っている。また、法人内のグループでの運動会にも参加している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所時にお金の管理について利用者、家族に十分に説明を行い、紛失や盗難防止の為にも1人1人の財布を預かり、おこずかい帳の活用を家族にも確認して頂き、管理を行っている。必要に応じて買い物出来るよう環境を整えている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎ、掛ける等の援助は常時出来る様になっている。手紙のやり取りも束縛なく行え、絵手紙教室の作品を家族に送る等援助している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられるよう利用者を中心とした、月間カレンダーや手作りの作品をフロア共有スペースに飾り利用者同士談話出来るようソファの設置も提供している。また、行事やレクリエーションの写真を掲示し、明るく居心地の良い雰囲気作りに努めている。	広い台所から食事の準備の匂いや、明るい光が差し込み居心地良い。壁には利用者が作った作品や写真が飾られ、また、1日のスケジュールを書いて掲示しており、利用者に予定を理解してもらうように工夫している。高い天井から光が入る部分には、布で光を遮るように飾っていて、利用者が気持ちよく過ごせるよう配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	長椅子ソファを設置し、それを活用したり、席を譲り合えるような環境作りを行っている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に利用者と家族と相談し、本人が安心、安全に生活出来るような好みの物を取り入れ、環境変化をあまり感じないよう配慮している。	ベッド、カーテン、エアコンが備えてあり、大きなクローゼットには、整理棚もあり衣類などが収納されている。花が好きな利用者は季節の花を飾ったり、花の図鑑を机の上に置き時間がある時に読んで過ごしている。遺影を飾ってある利用者もいて、どの居室も本人が落ち着いて過ごせるように工夫されている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人1人の能力を活かしながら、その人らしい生活が送れる様、安全に配慮している。またヒヤリハット・インシデントレポートを活用し、未然に防げるよう話し合いを行っている。			